

秋田県八峰町及び能代市沖における協議会

漁業影響調査（建設前1年目）結果報告 事業者説明資料

2026年9月



合同会社
八峰能代沖
洋上風力
GK Happe Noshiro Offshore Wind



1	漁業影響調査の概論	03
2	調査内容の概要	08
3	調査結果の概要	16
4	まとめ	34
5	参考資料 - 調査方法 -	36

1 漁業影響調査の概論

1.1 漁業影響調査の目的

禁転載

- ・ 漁業影響調査では、発電施設の建設と稼働に伴い、特に負の影響が懸念される場合の影響の緩和・軽減策を検討するために、漁業への影響の有無や程度を調査し、評価します
- ・ 本報告資料の対象である**建設前調査(1年目)**では、2024年度開催の検討委員会での意見を踏まえ、建設工事中・稼働開始後の影響評価に向けた**事前のデータ収集を目的**として、各種調査(操業・生物・環境)を実施しました

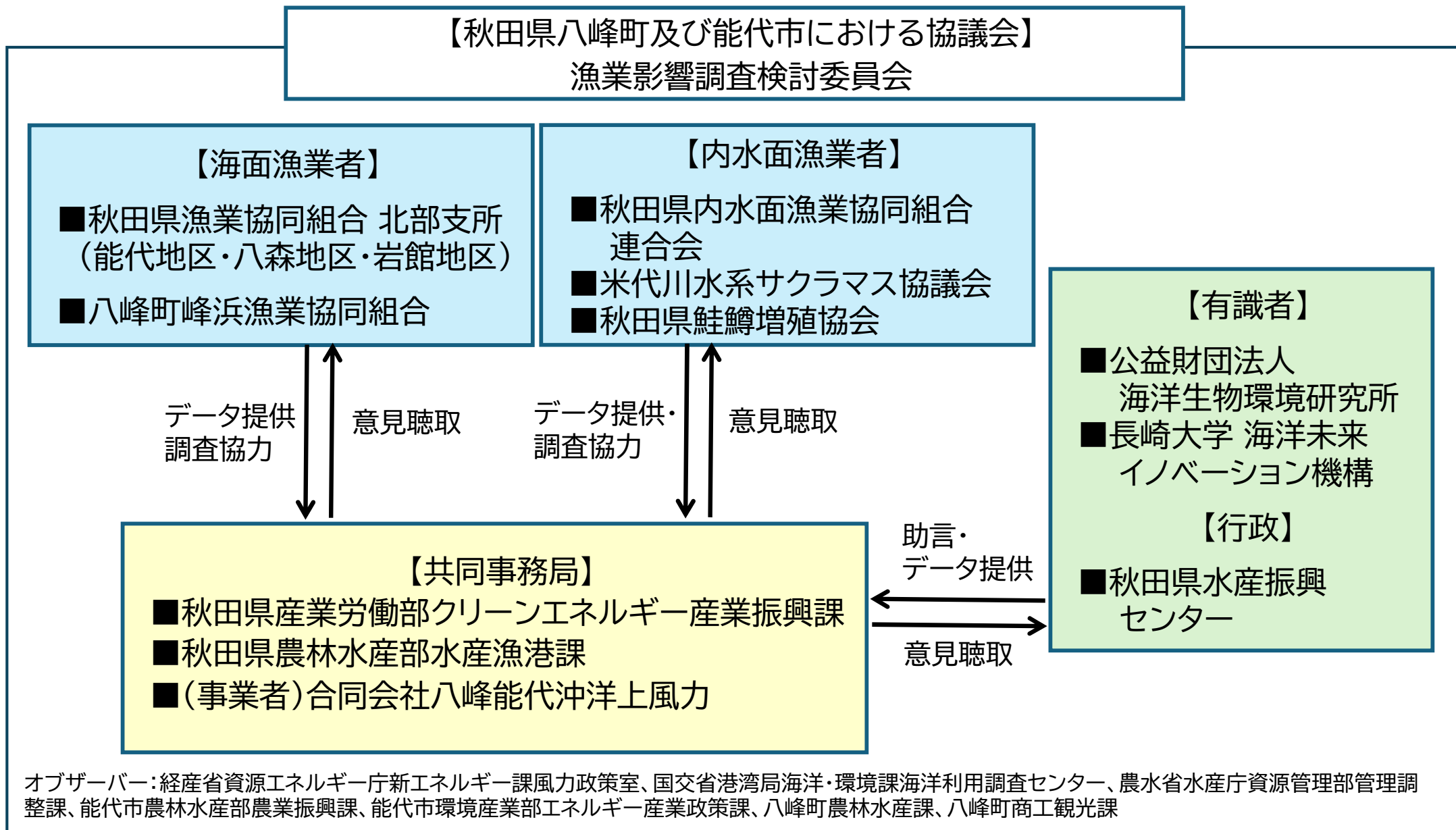
【参考】

「秋田県八峰町及び能代市沖における協議会意見とりまとめ(令和4年6月改訂)」より抜粋

- ・ 選定事業者は、本海域における漁場の実態に基づき、漁業との協調・共生・振興策について関係漁業者と協議を行うこと。また、**発電事業による漁業への影響について十分に配慮するため、少なくとも建設工事の1年程度前から漁業影響調査に着手することとし、発電事業の開始後も継続して実施すること。調査の具体的方法及び時期については、協議会での議論や、別途開催する実務者会議における検討内容、並びに関係漁業者、学識経験者及び地元自治体の意見・助言を尊重すること。その際、内水面漁業への配慮も適切に行うこと。**

1.2 実施体制

禁転載



1.3 調査海域

禁転載



合同会社
八峰能代沖
洋上風力
GK Happe Noshiro Offshore Wind

当該調査では、発電事業が実施される**事業区域内**と近傍の海域、及び**事業区域外**(対照域)の両方において行うことを基本とした(右図参照)

事業区域内:

能代地区・峰浜漁協の共同漁業権内を含む

事業区域外:

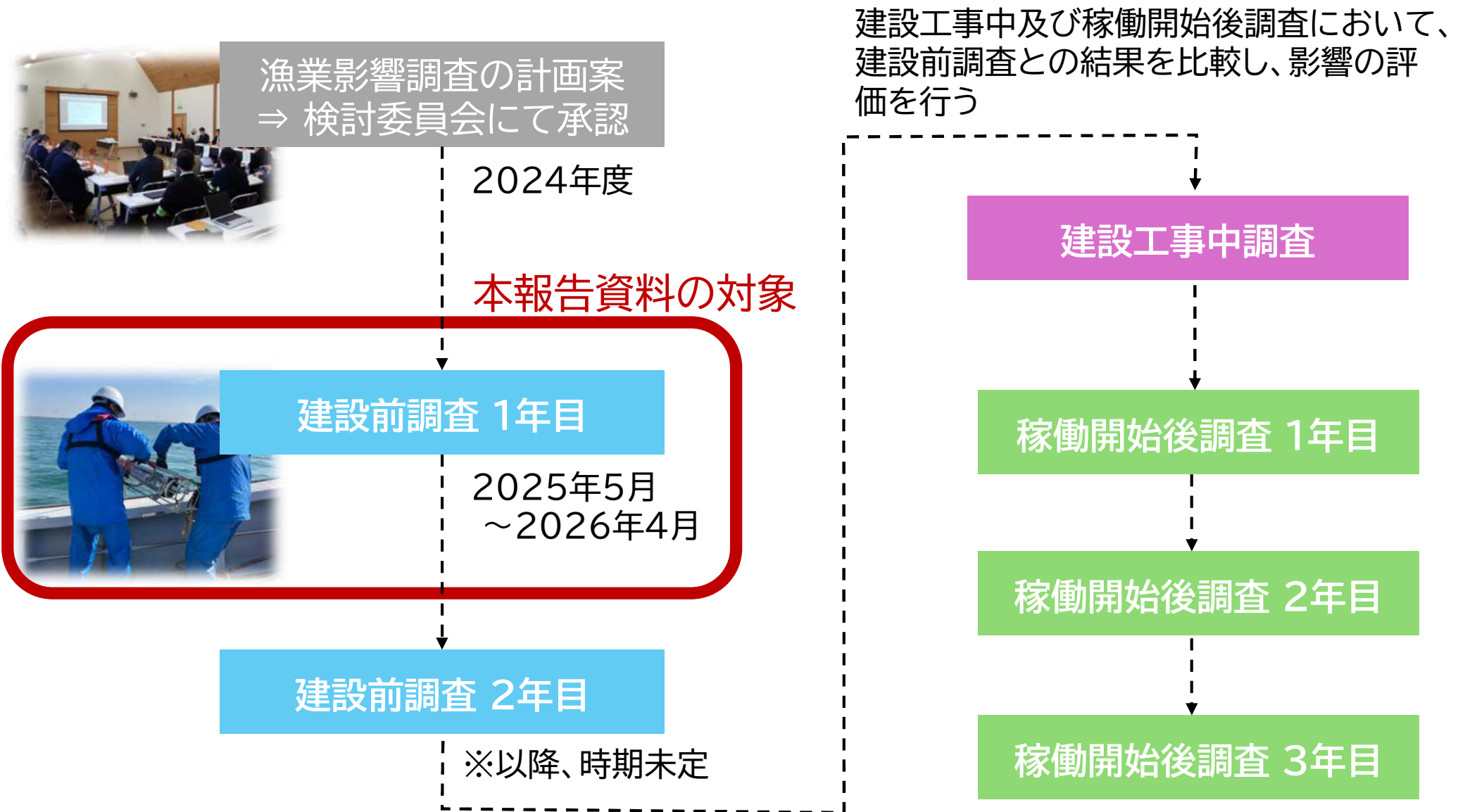
八森・岩館地区の共同漁業権内、及び事業区域より沖側一帯

これにより、事業区域内における事業実施前後の変化を同じ時期の対照域における変化(自然変動)と比較することによって、事業区域内における開発による影響の有無・大きさを分析する



1.4 漁業影響調査の長期計画

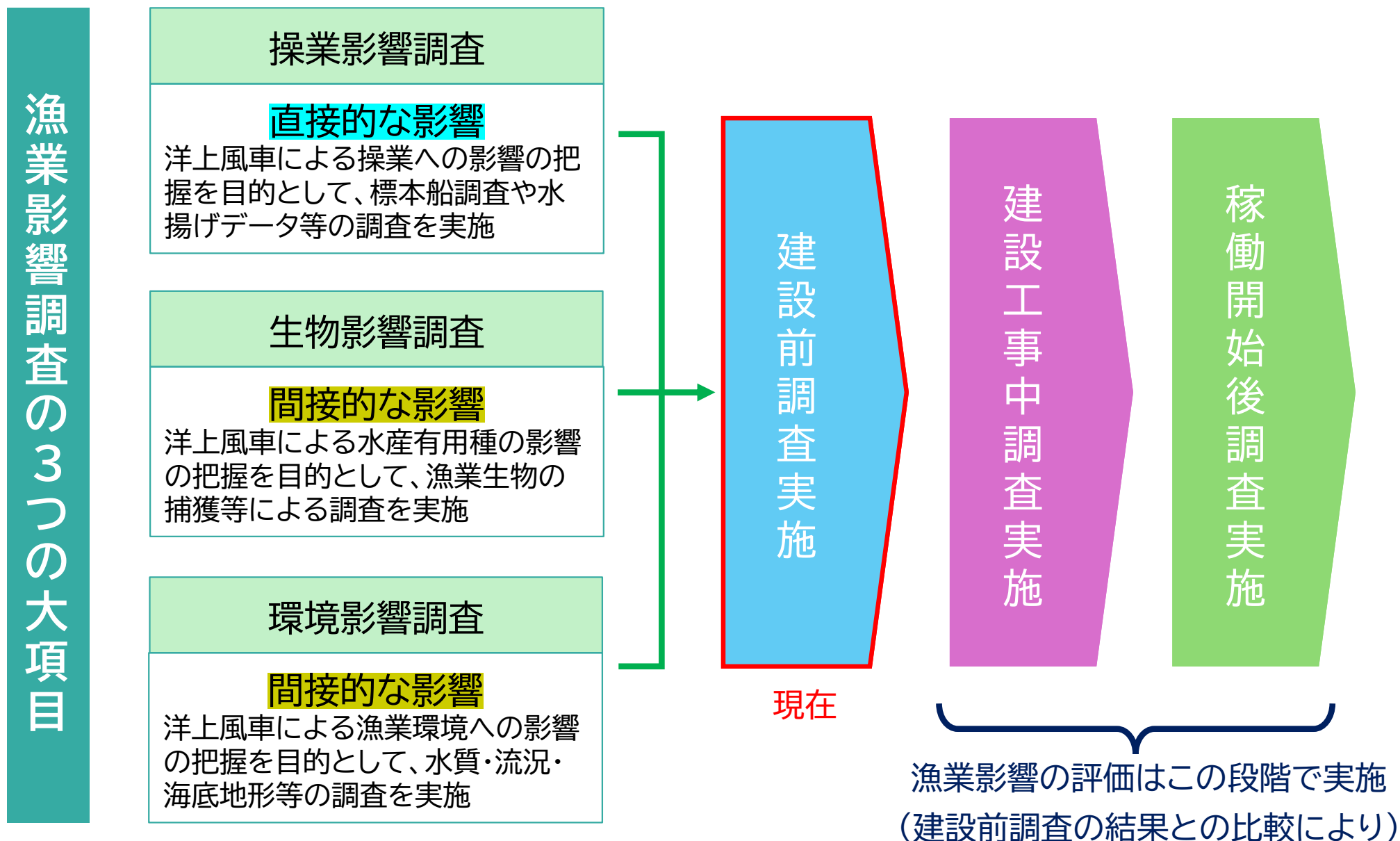
禁転載



2 調査内容の概要

2.1 調査の全体像

禁転載



2.2 各調査の目的

禁転載

大項目	小項目	調査目的（赤字:建設中・稼働後に評価する内容、青字:活用方針等の目的）
操業影響 (直接的な 影響)	標本船調査	漁場位置の変化、漁法ごとの操業実態の変化 →洋上風車による操業影響の評価に活用
	水揚げ資料等調査	漁獲量、漁獲努力量当たりの漁獲量の変化 →洋上風車による魚種・漁法ごとの操業の影響の評価に活用
	海面漁業者への 聞き取り調査	視界、電波、航行、地形変化、漂流物、操業機会の増減等の変化 →漁業者の所感を踏まえ、洋上風車による操業の障害等の評価に活用
生物影響 (間接的な 影響)	成魚捕獲調査	出現種、体長・重量、胃内容物から見た内水面有用種の被食状況の変化 →洋上風車による海産漁業種や内水面有用種(サケ・アユ等)の影響の評価に活用
	稚魚調査	ハタハタや内水面有用種等の稚魚の出現状況の変化 →洋上風車による海産漁業種や内水面有用種への影響の評価に活用
	文献調査	ハタハタの産卵状況やアユ・サクラマスの上、植物プランクトン等の状況の変化 →洋上風車による海産漁業種・内水面有用種や生物量の影響の評価に活用
環境影響 (間接的な 影響)	内水面漁業者への 聞き取り調査	内水面有用種(サケ・サクラマス・アユ)の上個体数、繁殖・産卵状況等の変化 →漁業者の所感を踏まえ、洋上風車による内水面有用種への影響の評価に活用
	現地調査 文献調査	流況・水質、水中音、底質等の変化 →洋上風車による各漁業種の生息環境への影響の評価に活用
	海面漁業者への 聞き取り調査	流況、風況、風波、海底地形、底質、振動及び水中音、海底ケーブルの電磁界、風車の影の変化 →漁業者の所感を踏まえ、洋上風車による各漁業種の生息環境や漁労環境への影響の評価に活用

2.3 実施スケジュール

禁転載



合同会社
八峰能代沖
洋上風力
GK Happe Noshiro Offshore Wind

大項目	小項目	調査方法※	2025年										2026年								
			5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9		
操業 影響	標本船調査	タブレットの記録																			
	水揚げ資料等調査	漁協提供資料の整理																			
	聞き取り調査	漁業者ヒアリング			●							●									
生物 影響	成魚捕獲調査	普段の操業の漁法による採取	●	●	●	●	●	●		●			●	●							
	稚魚調査	地曳網による採取	●	●									●	●							
	文献調査	文献情報整理						※	適	宜											
	聞き取り調査	内水面漁業者ヒアリング								●							●				
環境 影響	流況・水質	15日間連続観測								●			●								
	水中音	15日間連続観測				●		●		●			●								
	底質	採泥器による採取											●								
	文献調査	文献情報整理								※	適	宜									
	聞き取り調査	漁業者ヒアリング			●						●										
結果整理																					
検討委員会																		●			

※:調査方法の詳細は、巻末の「5. 参考資料 – 調査方法 –」参照

2.4 地区ごとの調査実施状況

禁転載

大項目	小項目	頻度	能代	峰浜	八森	岩館	内水面
操業影響	標本船調査※1	通年	● 4名	● 4名	● 4名	● 2名	
	水揚げ資料等調査	通年	●	●	●	●	
	聞き取り調査	年2回	●	●	●	●	
生物影響	成魚捕獲調査	魚種ごと※2	●	●	●	●	
	稚魚調査	年4回	●	●	●		
	聞き取り調査	年1～2回					●
環境影響	流況・水質	冬季・春季※3		— ※3	●		
	水中音	年4回	●		●		
	海底地形	年1回	— ※3	— ※3			
	底質	春季		— ※3	●		
	聞き取り調査	年2回	●	●	●	●	

※1:標本船調査の人数は協力漁業者を示す。なおハタハタの標本船調査は、能代1団体、八森2団体、岩館2団体。

※2:成魚捕獲調査の実施頻度は、後掲の「2.5調査地点(生物影響調査)」を参照。

※3:流況・水質の調査頻度は、計画では年4回(四季)であったところ、諸事情につき冬季・春季の2回のみ実施した。

また、実施予定であった海底地形調査、および峰浜海域での流況・水質及び底質調査は、諸事情につき不実施とした。

2.5 調査地点(生物影響調査)

禁転載

成魚捕獲調査の地点

図の範囲内で、協力漁業者の普段の操業における漁法により採取

□:ヒラメ・カレイ類
(5・6・3・4月)

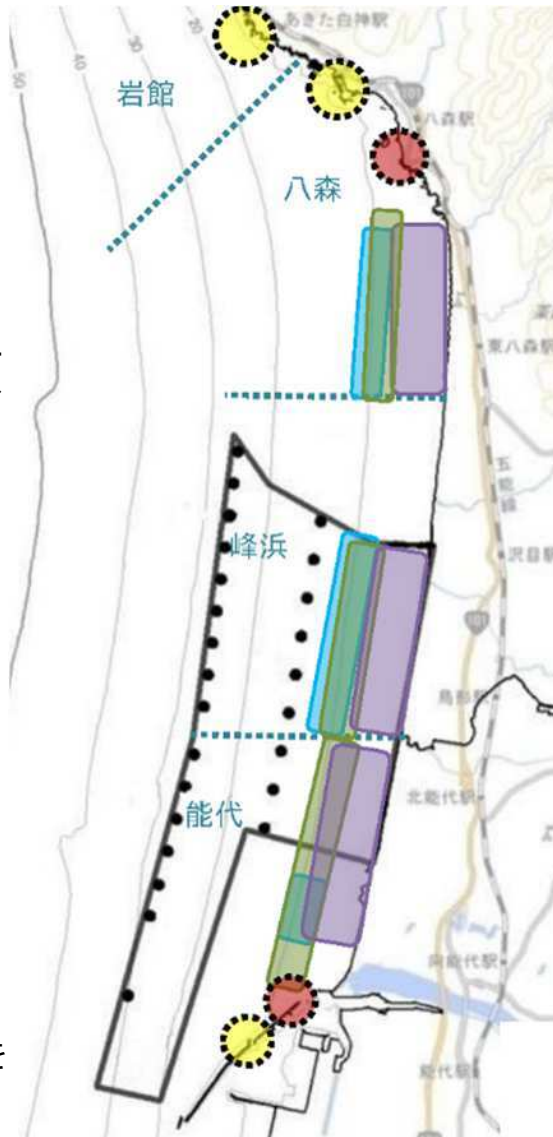
□:サクラマス※
(5・3・4月)

□:バイ
(6・7・8月)

●:ハタハタ
(12月)

●:イワガキ
(7月)

※米代川河口中央から
半径1km以内の範囲を
除く



稚魚調査の地点

各地点で調査員による採取

●●●:
稚魚調査地点
(5・6・3・4月)



2.6 調査地点(環境影響調査)

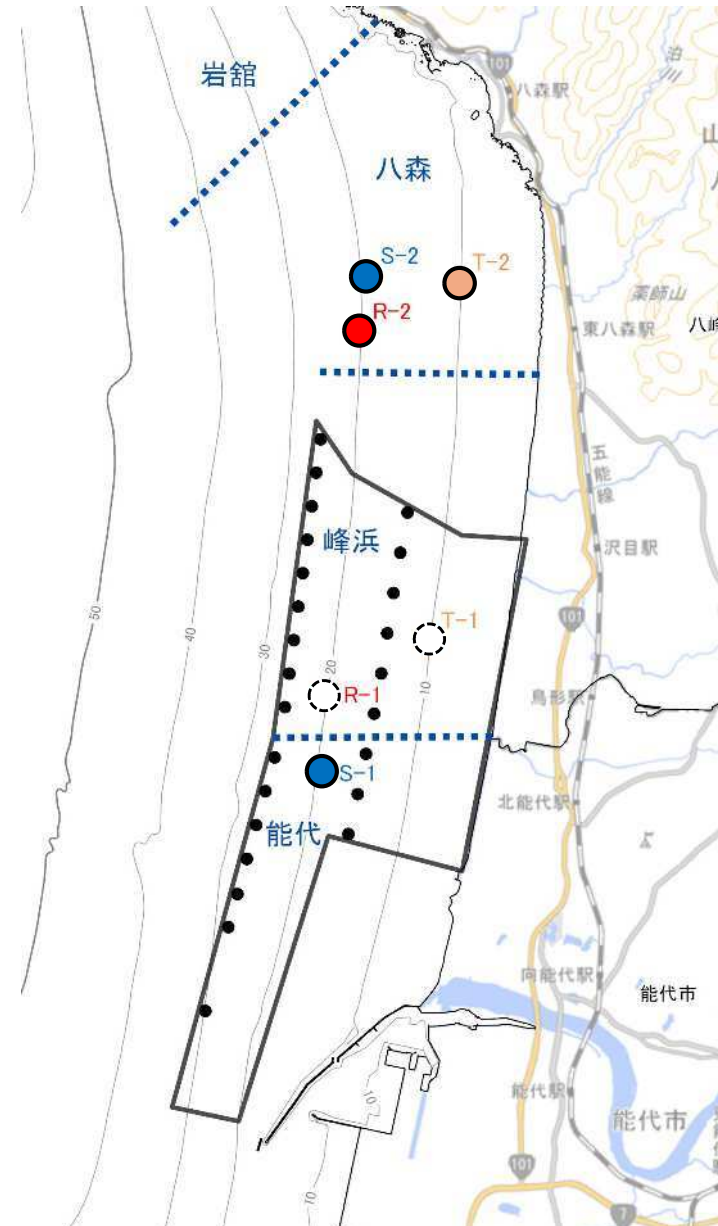
禁転載

流況・水質、水中音、 底質調査の地点

調査員による観測資材の設置・回収、採取
(傭船は漁業者に委託)

- : 流況・水質
(冬季・春季)
- : 水中音
(夏季・秋季・冬季・春季)
- : 底質
(春季)

※事業区域内における流況・水質および底質の調査は、
諸事情につき調査不実施とした。



2.7 本資料の網羅性

禁転載

本報告資料は、検討委員会報告用かつ一般への公表を前提として、以下のとおり簡略的に整理した。建設前1年目の調査結果は、建設工事時や稼働開始後の調査結果との比較による評価等に活用する。

操業影響調査

- 標本船調査の結果を踏まえて作成した漁場マップは、漁業者の操業における秘密情報を含むため非公開。漁港～漁場間の航跡も非掲載。
- 水揚げ資料等調査は、各地区ごとの総漁獲量のみ掲載（一部非公開）。月別、漁法別、魚種別等の内訳を省略。
- 聞き取り調査は、設問の回答数の内訳などの詳細情報を省略。

生物影響調査

- 成魚捕獲調査は、各魚種の体長・体重、胃内容物分析結果の詳細を省略。
- 聞き取り調査は、サケ・サクラマス・アユに関する要点のみ掲載。組合員を対象としたアンケート調査の結果は省略。

環境影響調査

- 流況・水質調査は、上層のみの概要の結果を掲載。
- 聞き取り調査は、設問の回答数の内訳などの詳細情報を省略。

3 調査結果の概要

3.1 操業影響調査の結果

禁転載

標本船調査

【漁場マップ】

※海面漁業者の操業における秘密情報を含むため、漁場マップは非公開
この代替として、魚種ごとの主な漁場位置を下表のとおり記述

調査対象種	事業区域内	事業区域外
ハタハタ	(漁獲無し)	八森漁港内・周辺 岩館漁港～積出港
カレイ類	主に水深10m以浅	八森漁港以南 岩館漁港付近
ヒラメ	主に水深10m以浅	八森漁港以南 岩館漁港付近
サクラマス	主に水深10m以浅	八森漁港以南 岩館漁港付近
バイ	主に水深20m以浅 (30m付近もあり)	主に水深30m以浅 (八森地区に集中)
シロギス	主に水深10m以浅	(漁獲無し)
マダイ	主に水深10m以浅	主に水深20m以浅 50m以深でも漁獲
アマダイ	(漁獲無し)	水深70～90m付近

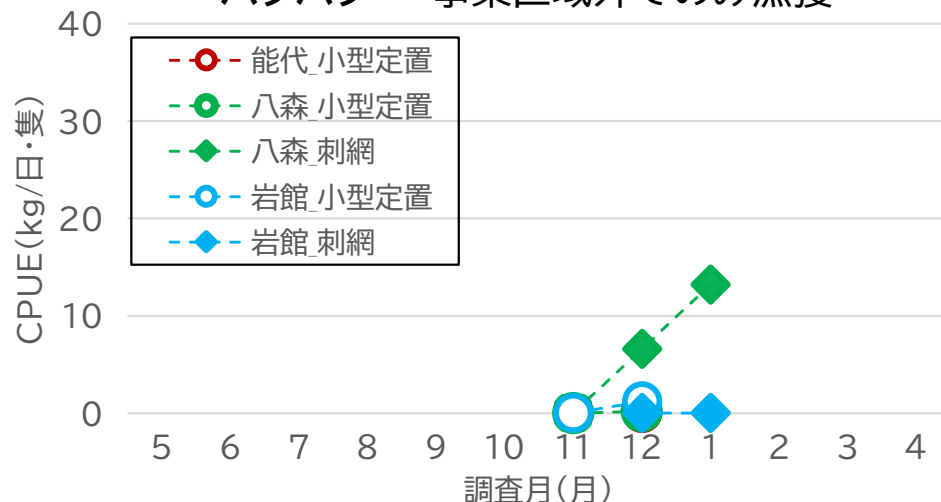


3.1 操業影響調査の結果

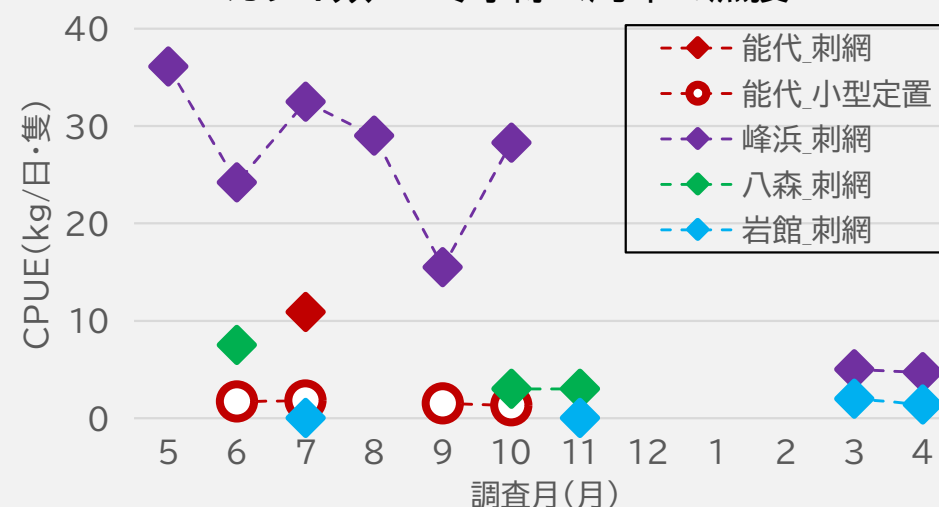
禁転載

標本船調査【CPUE(単位努力量当たりの漁獲量)】

ハタハタ…事業区域外でのみ漁獲



カレイ類…冬季除く周年で漁獲



ヒラメ…冬季除く周年で、多様な漁法で漁獲



サクラマス…刺網が主流

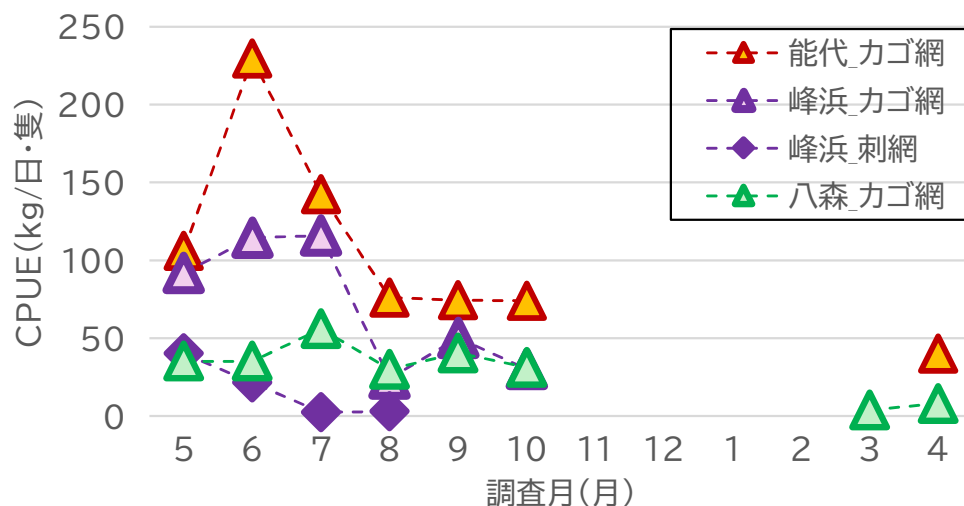


3.1 操業影響調査の結果

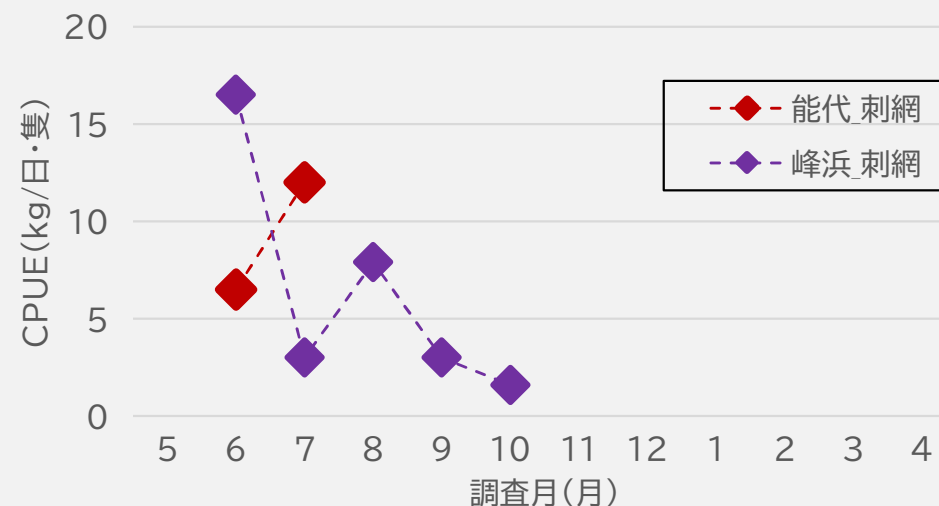
禁転載

標本船調査 【CPUE(単位努力量当たりの漁獲量)】

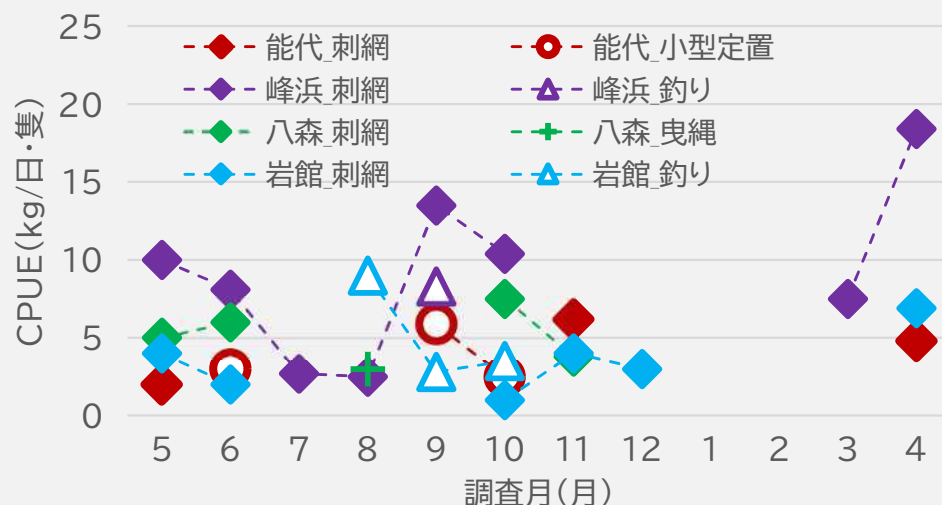
バイ…カゴ網が主流。事業区域内の夏季で多い



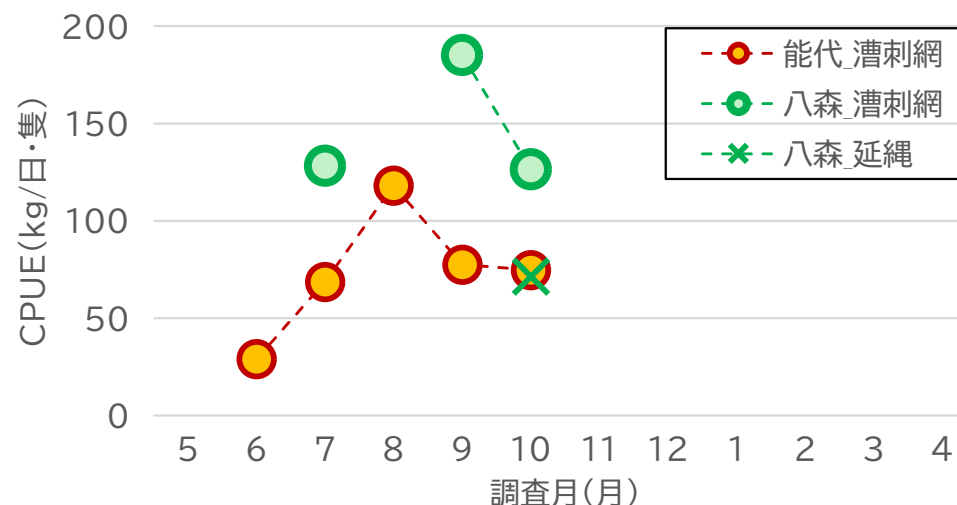
シロギス…事業区域内の夏季で多い



マダイ…冬季除く周年で、多様な漁法で漁獲



アマダイ…漕刺網が主流。夏季を中心に多



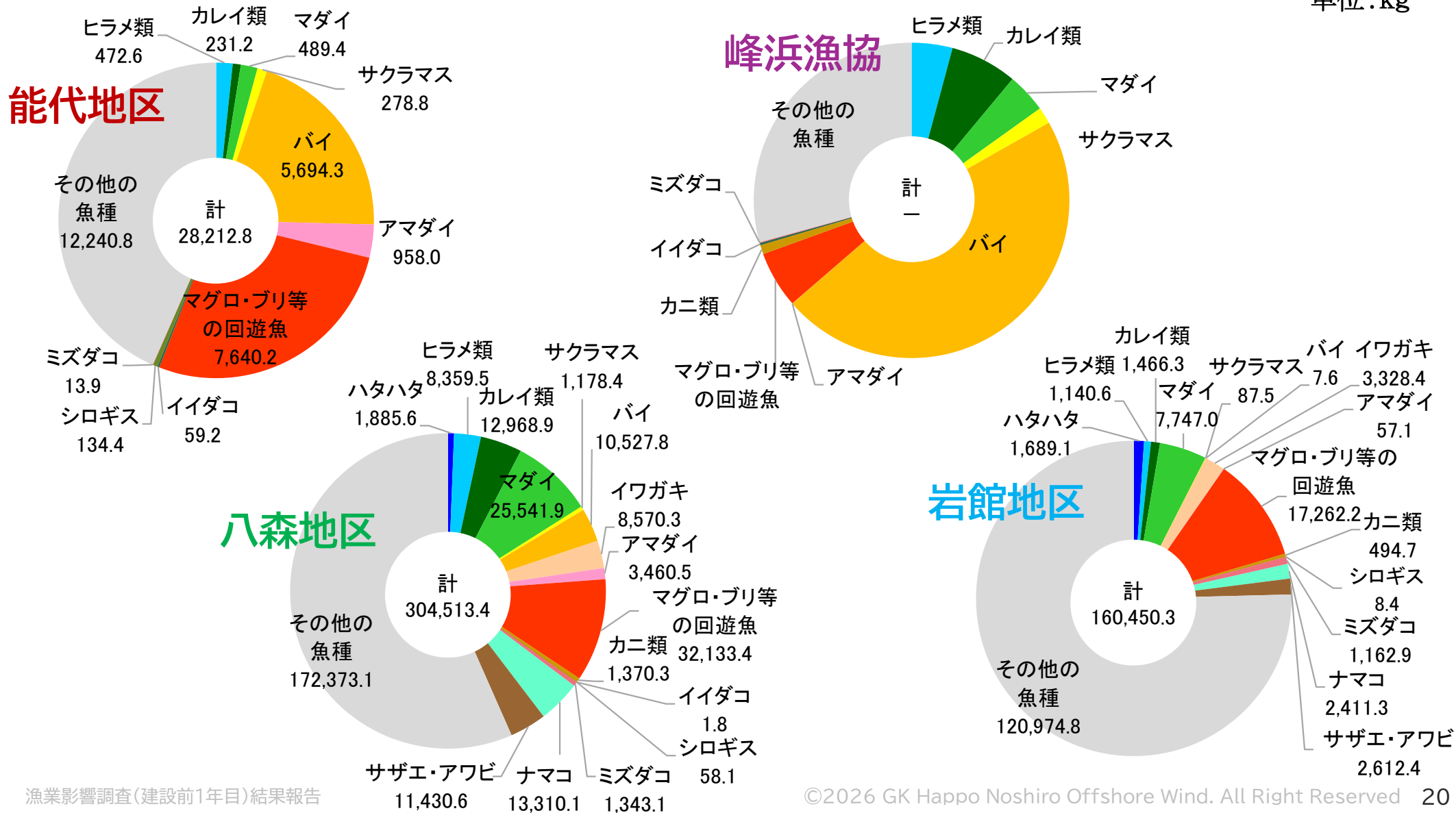
3.1 操業影響調査の結果

禁転載

水揚げ資料等調査

事業区域内では、ヒラメ・カレイ類・バイ・サクラマス・マダイのようなカゴ網・刺網・小型定置網の漁法を伴う種が過半～1/4を占める。

単位:kg



3.1 操業影響調査の結果

禁転載

聞き取り調査

現在の漁場の操業状況について各漁業者に聞き取りを行った。

設問	事業区域内	事業区域外
電波障害	「電波障害が無い」が優勢	「電波障害が無い」が優勢
海底地形(海底質)	砂・泥が過半	砂・泥が最多、次いで岩礁・礫の順
視界	「視界は良好で問題ない」が優勢	「視界は良好で問題ない」が優勢
プレジャーボートの多寡	「プレジャーボートが少ない／無い」が優勢	「プレジャーボートが少ない／無い」が優勢
プレジャーボートの存在により操業の支障	「支障が少ない／無い」が優勢	「支障が少ない／無い」が優勢
流木等の漂流物滞留	「滞留が多い／少ない」の回答が半々	「滞留が多い／少ない」の回答が半々
操業機会の変化(操業に有益な海況等の情報が十分に得られているか)	「十分／十分でない」の回答が半々	「十分である」が優勢
洋上風車が設置されることで使用しづらくなる漁法	カゴ網(バイ)、刺網(全般)、貝縄(タコ類)、釣り・曳縄(回遊魚、他) 等	刺網(全般)、漕刺網(キス類)、潜水(カキ・アワビ 他)、釣り・曳縄(回遊魚 他) 等

3.2 生物影響調査の結果

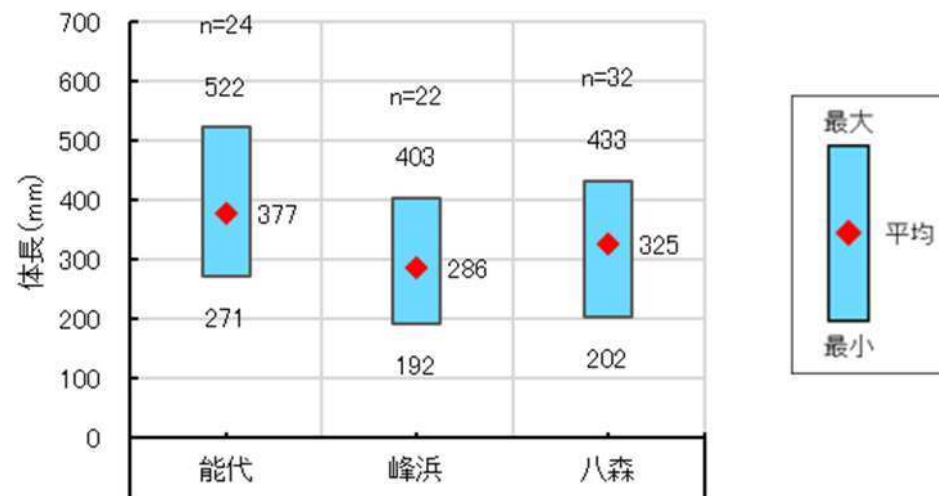
禁転載

漁業生物採取調査

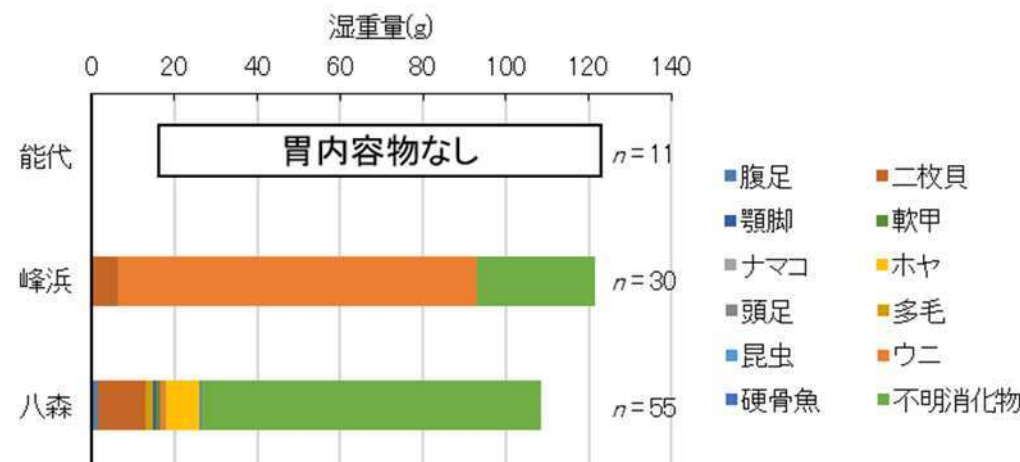
【成魚捕獲調査】

- 過去の漁業者との協議で意見の挙がった重要な水産有用種のうち一部の種(ヒラメ、カレイ類、バイ、サクラマス、イワガキ)を対象に、漁業者の協力を得て捕獲し、体長や重量を測定
- 種の細分化されたカレイ類を除き、各地区で漁獲された検体の全長や体長、湿重量等の平均値に顕著な差異は無し
- ヒラメ、カレイ類、サクラマス、及びそれらと混獲された肉食性魚種を対象に胃内容物分析を行った結果、貝類、甲殻類、ベントスや硬骨魚が主であり、サケやアユの稚魚は確認されず

体長分析の一例(ヒラメ)



胃内容物分析の一例(カレイ類)



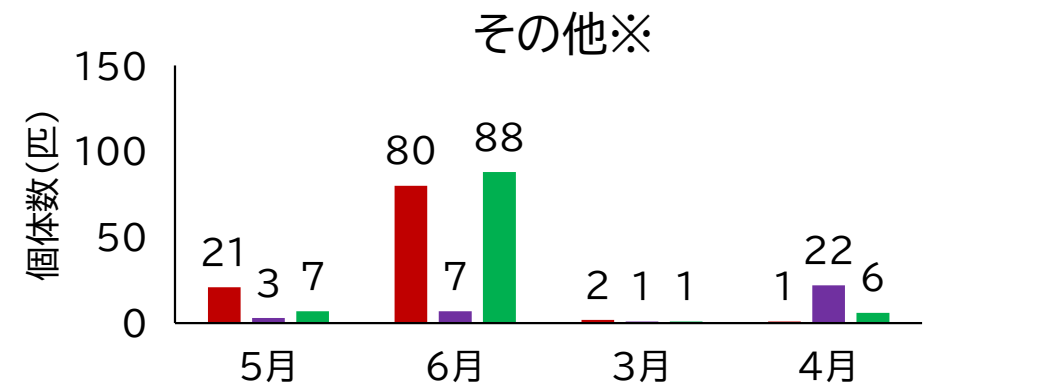
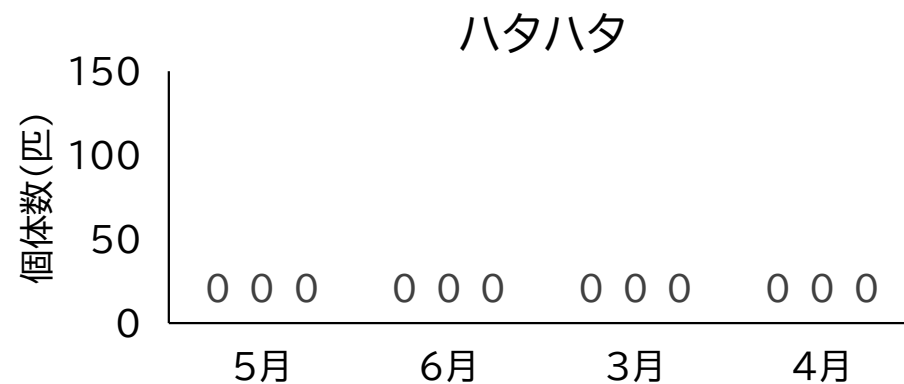
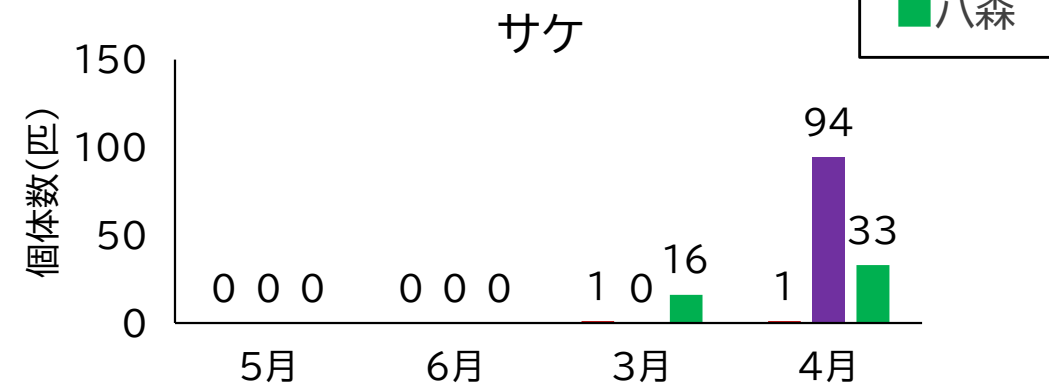
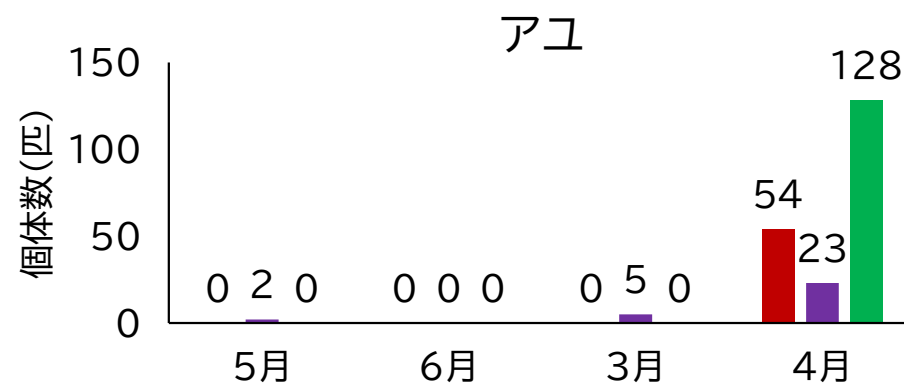
3.2 生物影響調査の結果

禁転載

漁業生物採取調査

【稚魚調査】

- アユ、サケともに、4月に最も多く確認
- ハタハタの稚魚は確認されず



※「その他」は、クロウシノシタ、スズキ、ウキゴリ、ウグイ、クロダイ、ボラ等を含む。

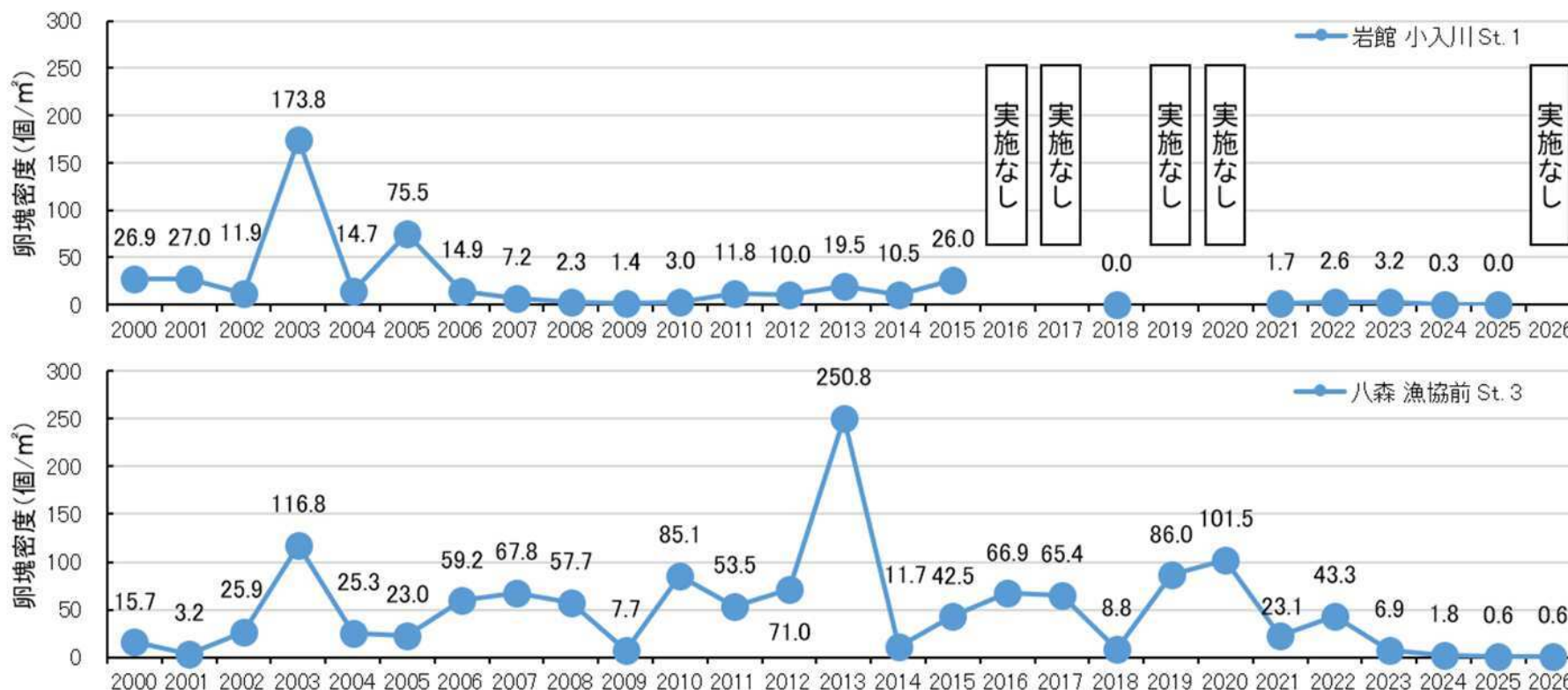
3.2 生物影響調査の結果

禁転載

文献調査

【ハタハタ卵塊調査】

- 岩館小入川St.1は2003年をピークに減少傾向。近2～3年は最少レベル。
- 八森漁港前St.3は2013年にピークを示したが、近2～3年は最少レベル。



出典)「平成25年度 秋田県水産振興センター業務報告書」(秋田県水産振興センター、2014年8月)、
「令和6年度 秋田県水産振興センター業務報告書」(秋田県水産振興センター、2026年2月)等を基に作成

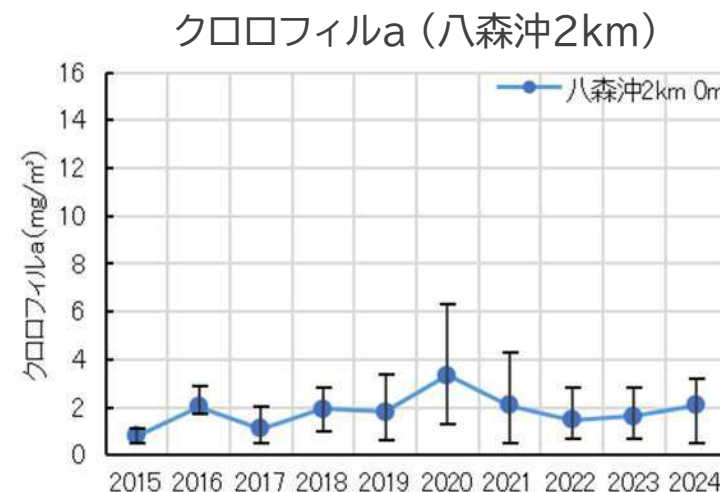
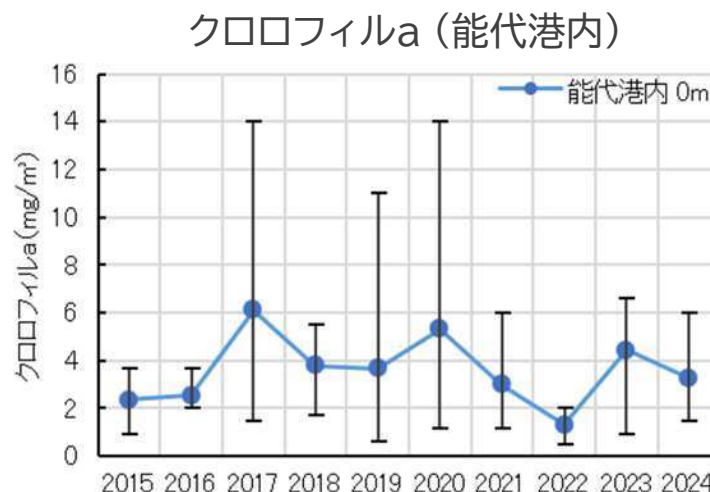
3.2 生物影響調査の結果

禁転載

文献調査

【クロロフィルa】

- 能代港内では
2～6mg/m³で推移。
- 八森沖2kmでは
1～2mg/m³で推移



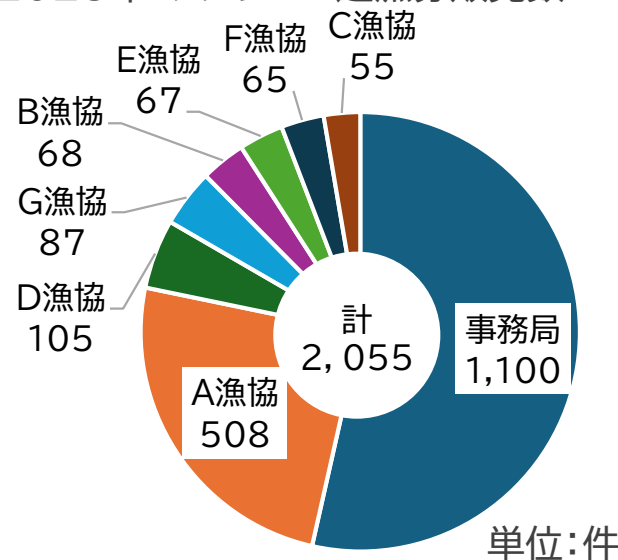
出典)秋田県公共用水域における水質測定結果(平成27年度～令和6年度)を基に作成

【遊漁券調査】

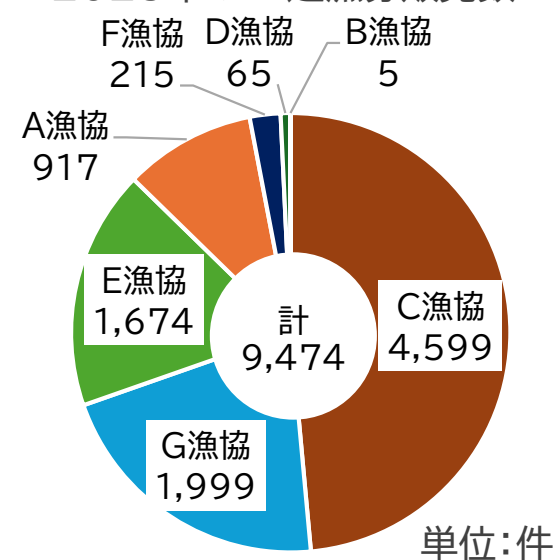
- サクラマス
全販売数:2,055件
事務局による販売が最多。
漁協別ではA漁協が最多。
- アユ
全販売数:9,474件
漁協別ではC漁協が最多
次いでG漁協、E漁協の順

※米代川水系7漁協の名称を、A漁協、
B漁協、・・・、G漁協と仮称で表記した

2025年 サクラマス遊漁券販売数



2025年 アユ遊漁券販売数



3.2 生物影響調査の結果

禁転載

文献調査

【サケ捕獲数(遡上数)・採卵数】

➤ 捕獲数

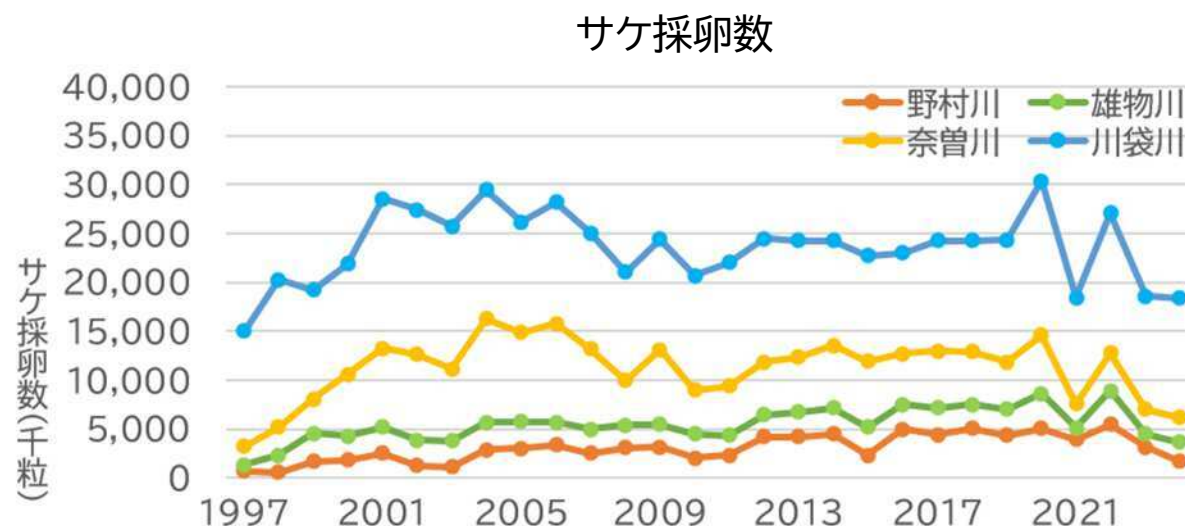
川袋川および奈曽川では
2004年にピークを迎え、
以降は横ばい～減少傾向。
2025年の遡上数は、
1997年以降最低であった。

➤ 採卵数

2022年ごろまではおお
むね横ばい傾向、2023年
以降は減少傾向

※ 野村川…男鹿市
雄物川…秋田市他
奈曽川…にかほ市
川袋川…にかほ市

出典)さけます類の河川別データ(国立研究開発法人
水産研究・教育機構ウェブサイト)等を基に作成



3.2 生物影響調査の結果

禁転載

聞き取り調査

■サクラマス(米代川水系サクラマス協議会) ※アンケートの調査結果を含む

- サクラマスの遡上数は深刻な状況では無いものの若干減少傾向にある。2025年の釣獲数も例年に比べて少ない。
- 河川の荒廃や護岸工事等によりサクラマスの産卵床が減少。近年は採卵数・稚魚生育数が確保できておらず、冷水を好む当該種に対する水温の上昇が要因の一つと考えられる。

■アユ(米代川各内水面漁協) ※アンケートの調査結果を含む

- ここ2年は遡上数が多い。釣獲数や遊漁券売上数の増加がそれを反映している。
- 産卵場を整備するなど、アユの資源量の確保に努めている。放流も合わせて行っている。
- カワウの食害や集中豪雨被害が足元の懸念事項。洋上風車に蛸集する根魚の食害も将来的な懸念事項に挙げられる。

■サケ(秋田県鮭鱒増殖協会)

- 近年は、遡上個体数、放流数および採卵数のいずれも減少傾向。2025年の遡上数や採卵数も例年に比べ極めて少ない。
- 遡上個体について、近年は小さい個体の割合が多くなっている。遡上数全体の母数が減少して小型個体の割合が増加しているように見える。

3.3 環境影響調査の結果

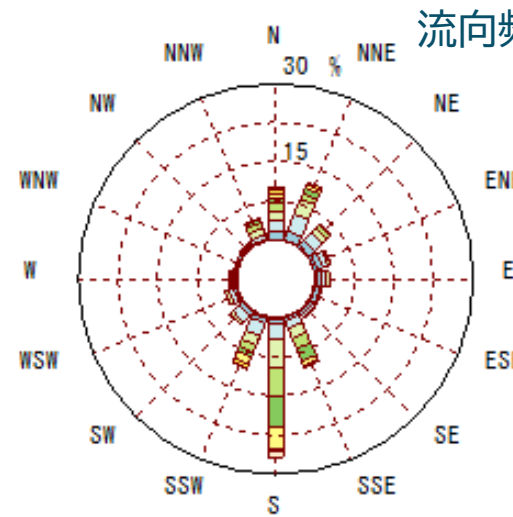
禁転載

現地調査

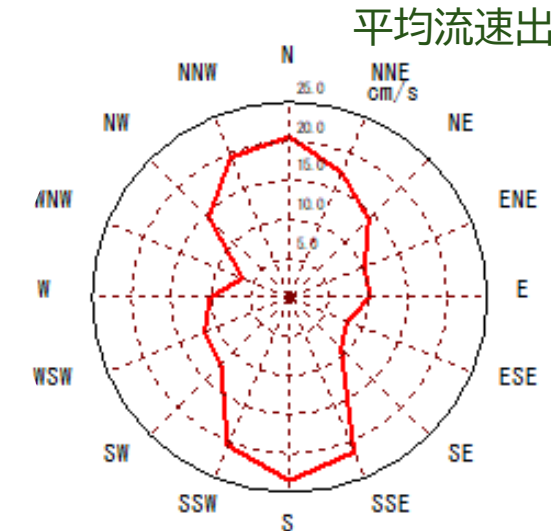
【流況】

- 冬季の流況頻度分布をみると、上層の流向は南方向が最も多く、次いで北方向が多い。
- 春季も南方向が多い傾向だが、南東～東方向の流れも一定割合を示した。
- 平均流速は、冬季は南北方向に高い。春季は南北方向に加え、南東～東寄りの方向も高い。

流向頻度図

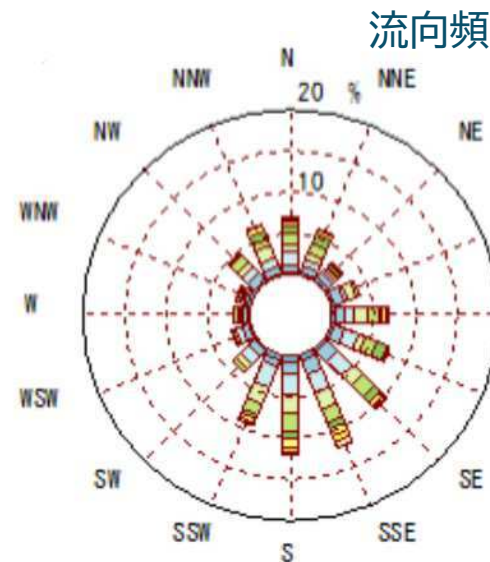


平均流速出現図

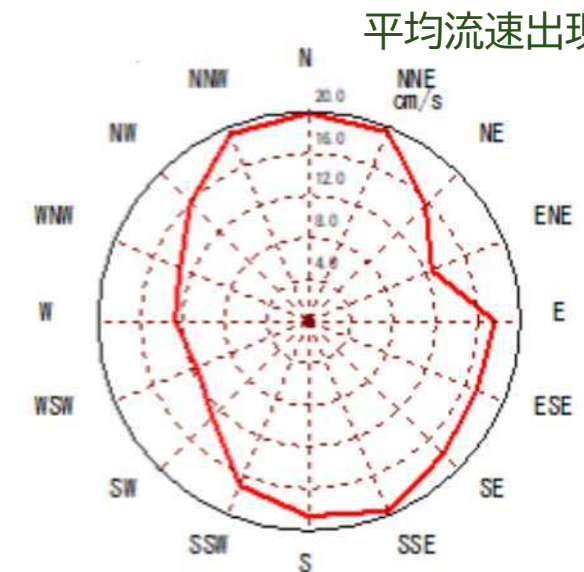


八森地区 冬季・上層

流向頻度図



平均流速出現図



八森地区 春季・上層

3.3 環境影響調査の結果

禁転載

現地調査

【水質】

- 八森地区(R-2)で水質を冬季・春季の各15日間連続で観測
- 塩分は春季がやや低め。雪解け水の淡水流入が要因か。
- 濁度は冬季が高め。高波浪による水底からの攪拌効果が要因か。

八森地区における水質調査結果概要（上層のみ）

項目	冬季	春季
水温(℃)	8～15	9～12
塩分	28～34	20～34
DO(mg/L)	9～12	9～12
濁度(CFU)	0～20	0～10
クロロフィルa(μg/L)	0～2	0～2

【底質】

- 八森地区(T-2)で底質を採取・分析
- 粒度分析の結果、均一な細砂を示した。
- 酸化還元電位(ORP)測定の結果、酸化状態を示した。
- 環境アセスの結果によると、事業区域内(能代・峰浜)の底質も同様の性状

八森地区における底質調査結果概要

項目	底質
性状	細砂
pH	7.97
ORP(mV)	382
強熱減量(%)	2.7

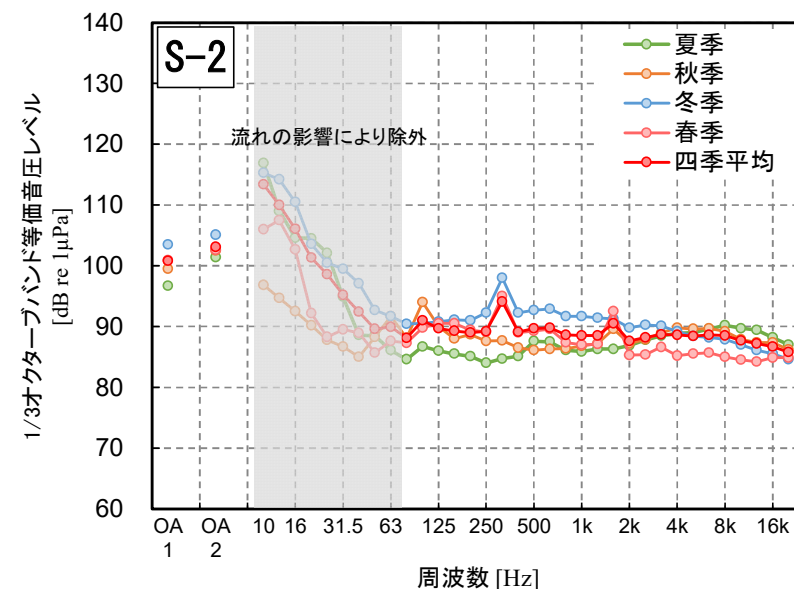
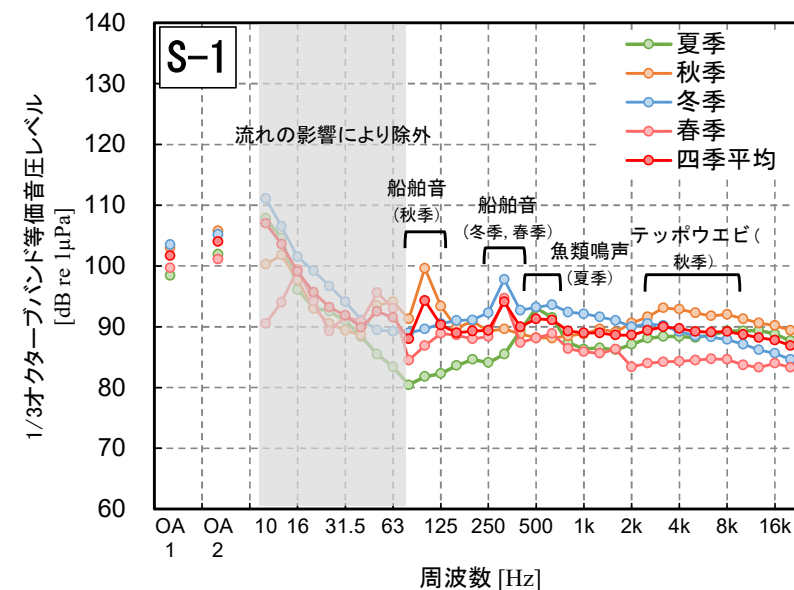
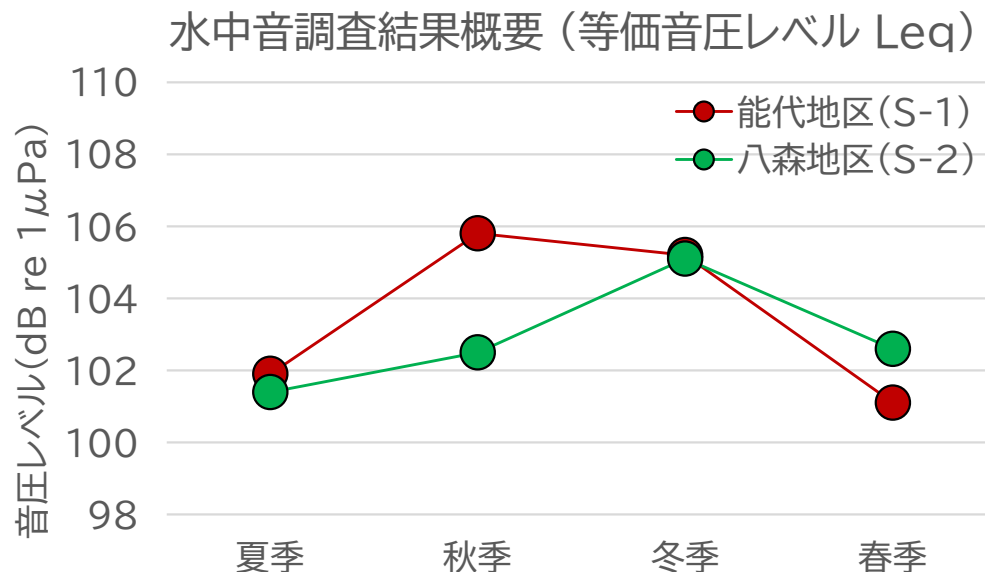
3.3 環境影響調査の結果

禁転載

現地調査

【水中音】

- 能代地区(S-1)及び八森地区(S-2)で背景音としての水中音を四季各15日間連続で観測
- 2地点共通で、船舶通航音や魚類の鳴き声が確認。冬季は波浪の音が支配的。
- 能代地区の秋季ではテッポウエビのパルス音が卓越



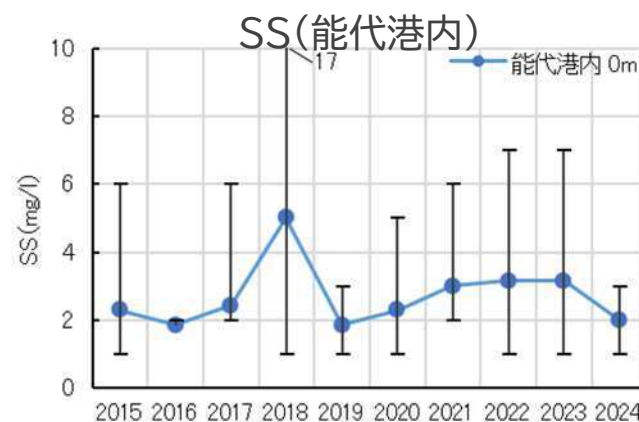
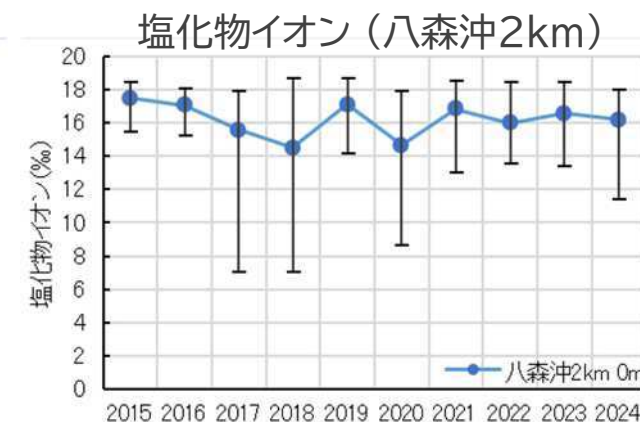
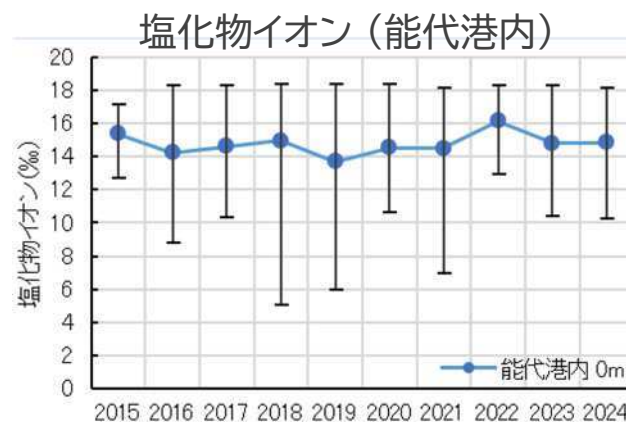
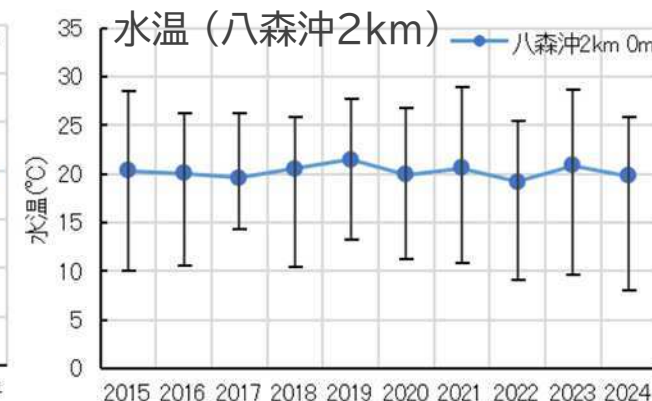
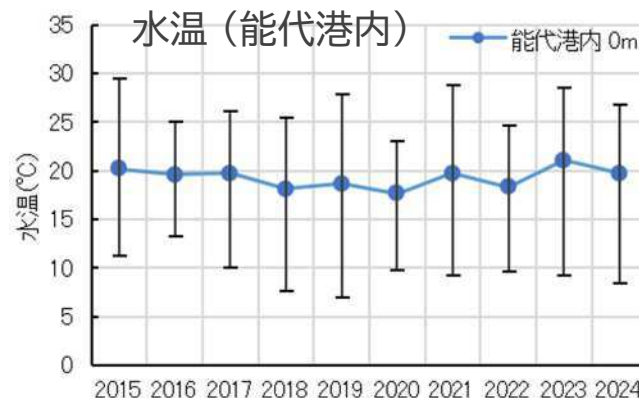
3.3 環境影響調査の結果

禁転載

文献調査

【近10年の水質の推移】

- 水温(4~10月)
20℃付近で推移
- 塩化物イオン(4~10月)
14~18%で推移
河川からの淡水流入状況により変動か
- SS(4~10月)
能代港内:2018年を除くと2~3mg/L程度で推移
八森沖:2mg/Lで推移



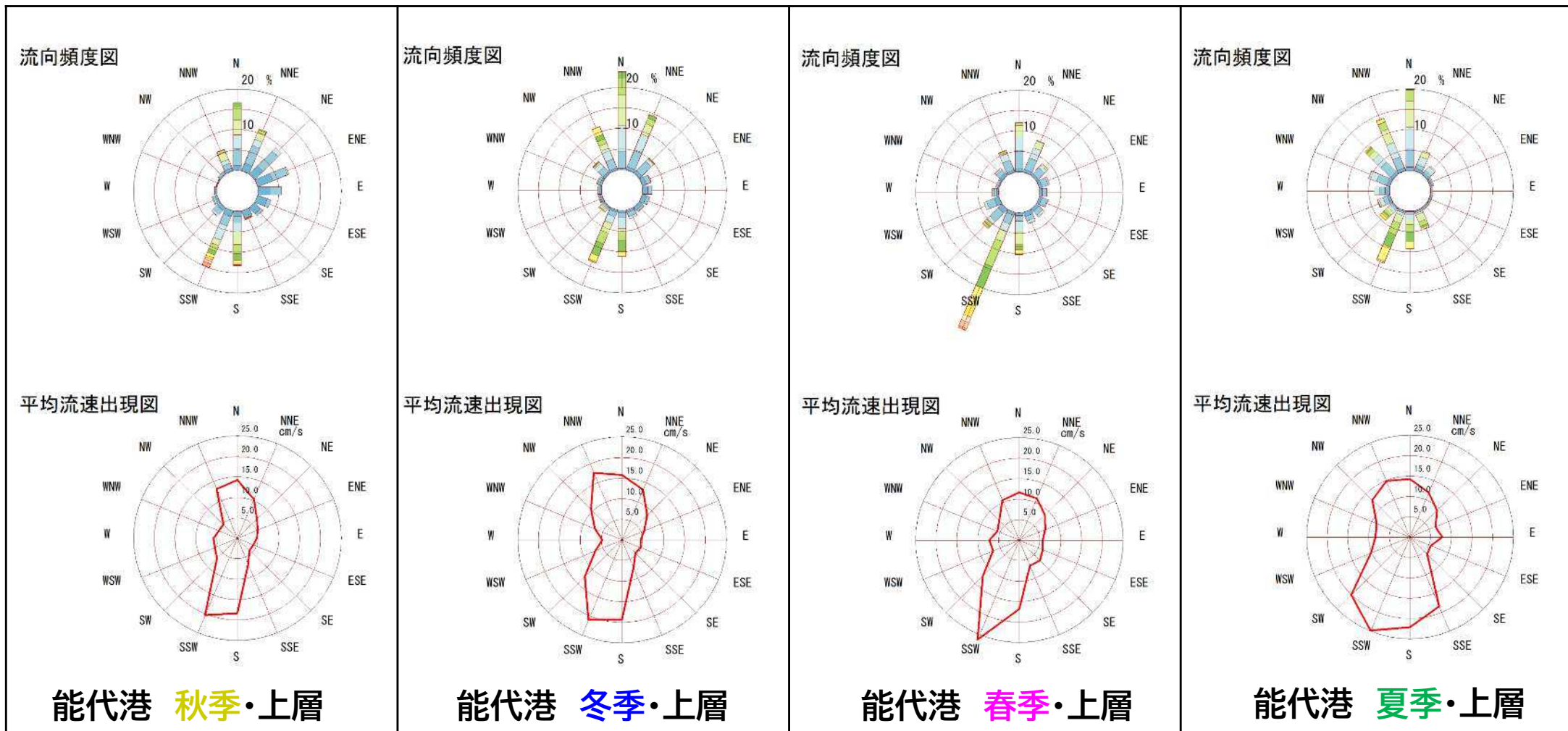
出典)秋田県公共用水域における水質測定結果
(平成27年度~令和6年度)を基に作成

3.3 環境影響調査の結果

禁転載

【ナウファス能代港の流況解析】

八森沖の現地調査結果と比較し、南南西方向の成分が強い。海岸線地形の違いが要因として考えられる。



※本ページで用いた波浪データは、国土交通省港湾局によって観測され、リアルタイムナウファスWEB上で処理及び公開されたものである

3.3 環境影響調査の結果

禁転載

聞き取り調査

現状の漁場の環境について、各漁業者に聞き取りを行った。

設問	事業区域内	事業区域外
水の濁りの有無	「発生していない」が優勢	「発生している」が優勢
水中音(人工音等)の有無	「発生していない」が優勢	「発生していない」が優勢
構造物(漁礁・根等)の有無	「存在する／存在しない」が半々	「存在する」が優勢
二枚貝等の付着生物や底生生物の生息の有無	「分からない」が優勢	「生息している」が優勢
近10年の潮流・流向の変化	「変化している」が優勢	「変化している／していない」が半々
近10年の風況の変化	「分からない」が優勢	「変化していない」が優勢
近10年の波浪の変化	「変化している／していない」が半々	「変化していない」が優勢
他事業による電磁場の変化	「分からない」が優勢	「分からない」が優勢
他事業による工事の振動	「漁獲量に変化なし」が優勢 「漁場に変化なし」が優勢	「漁獲量が減った」が優勢 「漁場に変化なし」が優勢
風車の影の発生の有無	「発生している／していない」が半々	「発生していない」が優勢

4 まとめ

4.1 まとめ(総括)

禁転載

操業影響調査

- 標本船調査より、事業区域内は刺網、かご網、小型定置網等を用いた漁場に広く利用されている。
- サクラマスは春季、バイやシロギスは夏季、ヒラメ・カレイ類やマダイは冬季を除く周年で漁獲が行われている。
- 水揚げ資料等調査より、事業区域内ではかご網・刺網・小型定置網の漁法を伴う種が漁獲量の多くを占める。
- 海面漁業者に対するヒアリング調査では、電波障害や視界、プレジャーボート等の存在等による操業への支障は、現時点では確認されなかった。

生物影響調査

- 成魚捕獲調査において肉食性魚種を対象に胃内容物分析を行った結果、サケやアユの稚魚は確認されなかった。一方で稚魚調査では、特に4月でアユやサケの稚魚が多く確認された。
- 内水面漁業者に対するヒアリング調査では、サケの遡上数の低下やアユ・サクラマスの資源維持等に関する諸情報が得られた。

環境影響調査

- 現況の事業区域内外における環境データの収集を行った結果、水中音については生物音や波浪音などの季節固有の由来の音が確認され、底質については事業区域内及びその周囲が主に砂地であり、流況については南北方向の流向を基本としたデータが得られた。
- 海面漁業者に対するヒアリング調査において、事業区域内外の漁場環境に関する情報が得られた。

5 参考資料 - 調査方法 -

5.1 操業影響調査の方法

禁転載

標本船調査

- 協力いただく漁業者(計14名)に所定のアプリをインストールしたタブレット端末を配布
※一部、紙媒体の運用あり
- 毎操業日にタブレット端末を漁業者に持参いただき、漁業者にて漁場位置と漁法・魚種ごとの漁獲量を入力
- システムに集計されたデータを事業者が解析し、魚種ごとの漁場マップやCPUEを作成



※事業区域内で主に用いられている漁法(刺網・かご網等)で操業している漁業者を中心に、協力者を選定

水揚げ資料等調査

水揚げデータや実績を各漁協より共有いただき、事業者にて事業区域内・外の漁法別・魚種別データを整理

聞き取り調査

洋上風車に係る一般的な操業影響要素に関する聞き取り
洋上風車による漁具使用制限、視界悪化、電波障害、航行制限等、漂流物滞留、海底地形変化等



5.2 生物影響調査の方法

禁転載

漁業生物採取調査

【成魚捕獲調査】

- 重要な水産有用種の一部を対象に捕獲調査・分析を行った
- 捕獲作業は漁業者の協力のもと、普段の操業の漁法により実施
- 捕獲された生物を事業者が受領し、分析室にて体長・重量の計測、胃内容物分析等を実施（混獲生物も一部を分析対象）



5.2 生物影響調査の方法

禁転載

【稚魚調査】

- 事業区域内外の沿岸において、調査員の地曳網による稚魚の捕獲
- 分析室にて同定分析



文献調査

- 秋田県水産振興センター年度業務報告書のハタハタ卵塊調査、秋田県公共用水域調査結果、国立研究開発法人水産研究・教育機構のさけます類データにおける連続した既存データを集計
- 内水面漁協における遊漁券の販売実績を調査

聞き取り調査

- 内水面水産有用種(サケ、サクラマス、アユ)の遡上個体数、繁殖・産卵状況、釣獲数等に関する情報を聞き取り
- サクラマスとアユの遊漁者を対象としたアンケート調査



5.3 環境影響調査の方法

禁転載

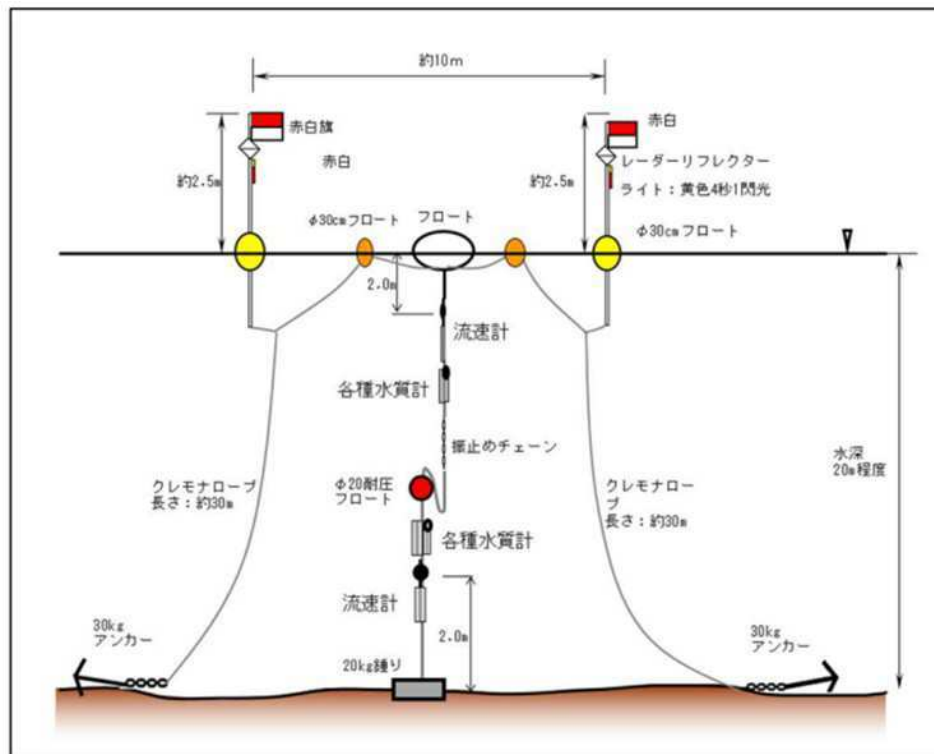
現地調査

【流況】

事業区域外で流向・流速を観測・解析(15日間以上×冬季・春季)

【水質】

事業区域外で水温・塩分・濁度・クロロフィルaを観測・解析(15日間以上×冬季・春季)

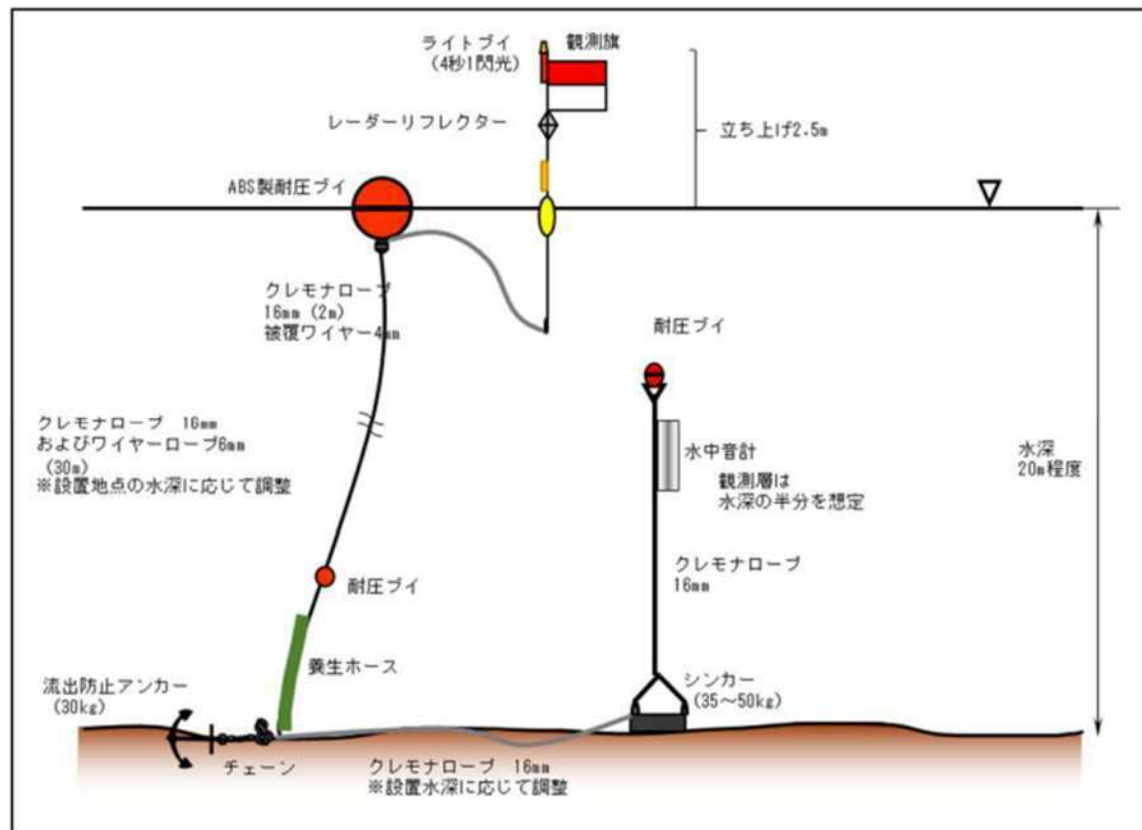


5.3 環境影響調査の方法

禁転載

【水中音】

事業区域内・外で水中音を観測・解析(15日間以上×四季)



水中音計



係留物設置状況

5.3 環境影響調査の方法

禁転載

【底質】

事業区域外で底質を採取・分析



文献調査

- 公共用水域水質データによる塩分・濁度等の水質情報の整理
- ナウファス能代港地点での観測データをもとに流向・流速を解析(15日間×四季)。

聞き取り調査

洋上風車に係る一般的な環境影響要素に関する聞き取り

付着生物影響(再懸濁・底質悪化)、流況変化、底質変化、水中音変化、電磁場、風車影の影響等

ご清聴ありがとうございました

2026年9月



合同会社
八峰能代沖
洋上風力
GK Happono Noshiro Offshore Wind



合同会社
八峰能代沖
洋上風力

GK Happonoshiro Offshore Wind

《本資料取り扱い上のご注意》

本資料は合同会社八峰能代沖洋上風力(「以下、弊社」)が作成したものです。

- ・本資料は、作成時点における弊社の見解、計画等についてご説明し、ご理解いただくために作成されたものであり、今後変更される可能性がございます。
- ・本資料の作成にあたっては、可能な限り正確な情報を掲載するよう努めておりますが、必ずしもその内容の正確性および完全性を保証するものではありません。
- ・本資料の著作権は弊社に帰属しておりますので、その方法・目的を問わず弊社に無断で複製、配布等されないよう、お願い申し上げます。